

MITSUBA

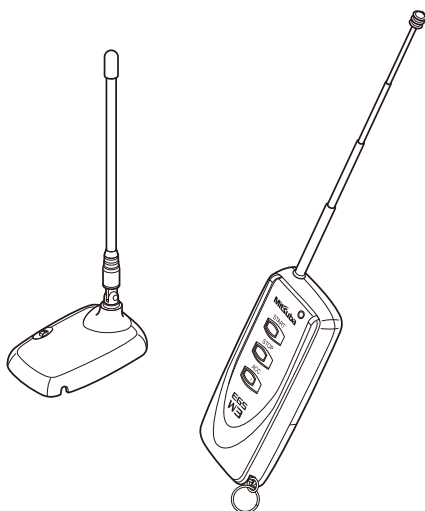
リモコンエンジンスターター

EGS-W3

アンサーバックシステム搭載モデル

取付・取扱説明書(保証書付)

- ☆このたびは、EGS-W3をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要な時ご利用出来るように大切に保管して下さい。
- ☆本商品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず商品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。
- ☆本商品は日本国内でのみご使用出来ます。



この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

.....

⚠ 危険 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。

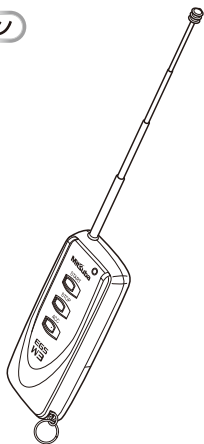
⚠ 警告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。

⚠ 注意 取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、商品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

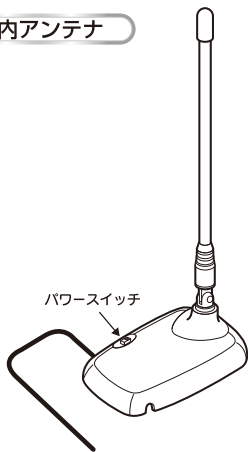
U-PZ-0265A

パッケージ内容 ※接続前に、内容をお確かめ下さい。

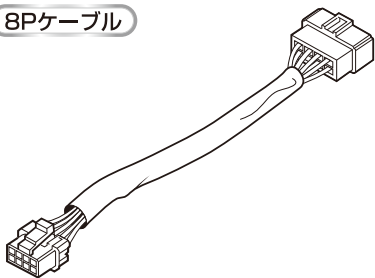
リモコン



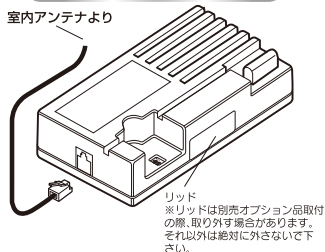
室内アンテナ



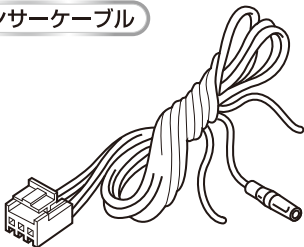
8Pケーブル



エンジンスターター本体



安全センサーケーブル



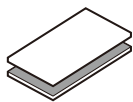
付属部品セット

■結束バンド

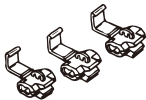
大：1ヶ
小：2ヶ



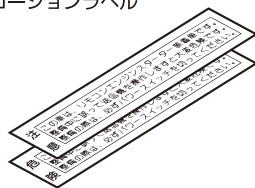
■マジックテープ



■エレクトロタップ



■コーションラベル



■取付・取扱説明書



はじめに	■パッケージ内容 2
	■目次 3
	■取り付け可能な車の条件 4
	■安全に使用するための注意 5~7
	□安全上の注意 (5~6)
□使用上の注意 (7)	
取り付け作業	■取り付け前の準備 8
	■取り付け概念図 8
	■専用ハーネス・室内アンテナ・エンジンスターター本体の接続 9
	■オートマチック車の登録 10
	■動作確認をします 11
	□エラー発生時のQ&A (11)
	■うまく動作しない場合の対応 12~15
	□L端子検出方式への変更 (12)
	□L端子誤配線チェック機能 (12)
	□始動パターンの切替（グロー設定/解除） (13)
	□キー始動学習機能の設定 (14)
	□フットブレーキ検出方式への変更 (15)
	■仕上げ 16
	□室内アンテナの取り付け (16)
	□未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け (16)
□コーションラベルの貼り付け (16)	
操作方法	■リモコンでエンジン始動 17
	■リモコンでエンジン停止 17
	■タイマーで自動停止 18
	■リモコンでエンジンの状態を確認する（アンサーバック） 18
	□エンジン始動の確認 (18)
	□エンジン停止の確認 (18)
	■アイドリング時間の設定 19
	■ターボタイマー機能について 20~21
	□ターボタイマーの設定/解除方法 (20)
	□ターボタイマーの使用法 (21)
□リモコンでターボタイマー停止 (21)	
■スリープ機能について 21	
■本機の電源を切るときは 21	
オプション	■運転席ドアスイッチ配線を行う場合 22
	■ボンネットスイッチ（別売）を取り付ける場合 23
	■ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合 23
	■「ミツバG-System」について 24
	□本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品进行操作する場合 (24)
	■オプション（別売）品のご案内 25
その他	■メンテナンス 26
	□電池の交換方法 (26)
	□リモコンを紛失したときは (26)
	■故障かな?と思ったら 27~28
	■仕様 29~30
	□リモコンのブザー音とLED表示について □エンジンスターター本体のブザー音について (29)
	□エンジンスターター本体部のモードスイッチについて (30)
■アフターサービスについて □保証書 31~32	

取り付け可能な車の条件

●「EGSシリーズ適応車種一覧表」に記載されている車種であること。

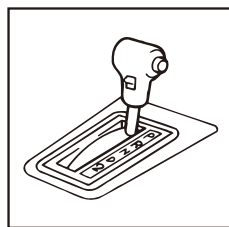
他のエンジンstarter、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよくご覧になり、車に適合した当社製専用ハーネスをご使用下さい。

●スターター作動時間が2.5秒以内でエンジンが始動出来る車であること。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

○オートマチック車であること。

エンジンstarter本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車への取り付けは出来ません。

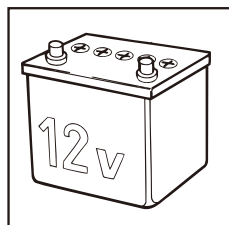


○国産車であること。

外国車への取り付けは出来ません。

○12V車であること。

24V車への取り付けは出来ません。

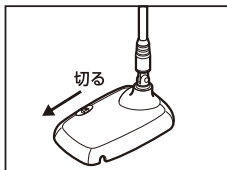


○電子燃料噴射装置搭載車であること。

電子燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンが始動することが出来る車のみ、取り付けが可能です。エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けは出来ません。

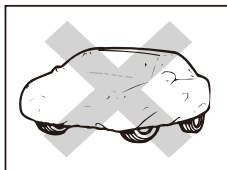
安全上の注意

危険



下記の場合には、パワースイッチを切って下さい。事故の恐れがあります。

- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 整備、車検等を行う場合。
- 当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



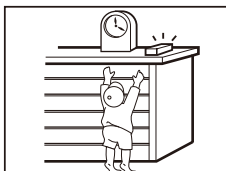
車にボディカバー等を掛けたままで使用しないで下さい。火災の恐れがあります。



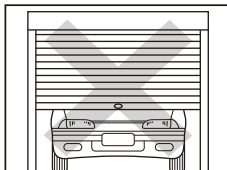
人(特にお子様)やペットが車内にいるときは、絶対にエンジンを始動しないで下さい。お子様による車の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。



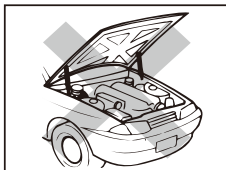
リモコンでエンジンを始動するときは、車の近くに燃えやすい物がないことを確認して下さい。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。

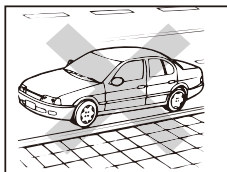


密閉されたガレージ内では使用しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。

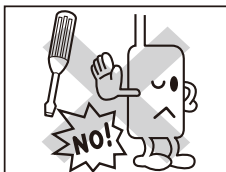


ボンネットを開けるときはパワースイッチを切って下さい。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。事故の恐れがあります。

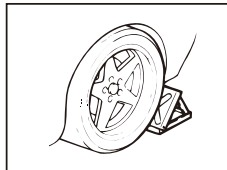
警告



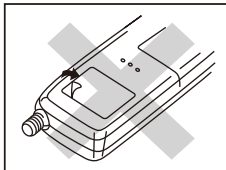
公道上では使用しないで下さい。公道上での使用は違法となります。



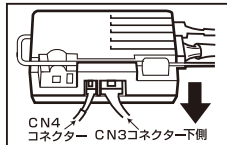
この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



斜面上で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。



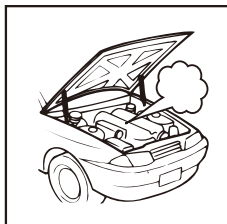
リモコン及び室内アンテナ裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



エンジンスターター本体のケーブル接続端子部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。オプション品の取り付け等で、リッドを外した場合には、CN3、CN4のコネクタ面が下を向くように設置して下さい。

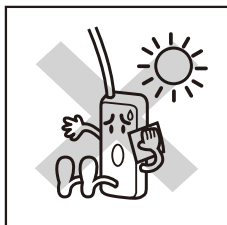
安全に使用するための注意

⚠ 注意

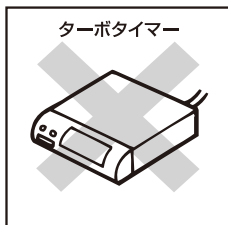


暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をす
る恐れがあります。
ご注意ください。

●リモコンでエンジン始動中は、エアコン（ヒーター）以外の
スイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディ
オ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周
辺が発熱し故障の原因となる恐れがあります。

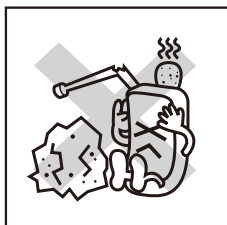


リモコンは、高温になる場
所には放置しないで下さい。
変形、変色や故障の原因と
なります。

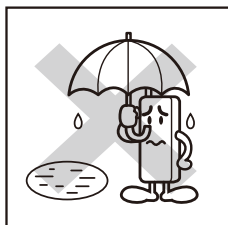


ターボタイマー

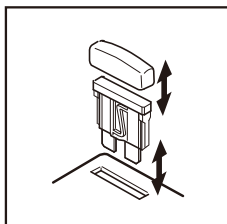
指定の盗難警報機（別売）
を除き、他のエンジンスタ
ーターやターボタイマー、
盗難警報装置との併用は、
絶対しないで下さい。故障
や誤動作の原因となります。



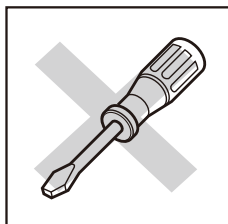
リモコンは落としたり、硬い
物にぶつけないで下さい。
また、アンテナは無理な力
で引き伸ばしたり、収納し
たりしないで下さい。故障の
原因となります。



本機は水に濡らさないで下
さい。とくにリモコンは衣
類のポケット等に入れたま
ま、洗濯しないように充分ご
注意下さい。故障の原因と
なります。



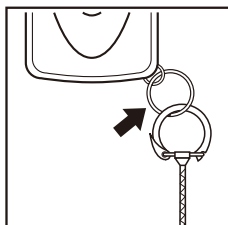
ヒューズ切れの直後はヒュ
ーズ部が高温となりますの
で、交換には注意して下さい。
また、交換作業後はヒュー
ズキャップを必ずつけて下
さい。なお、一部車種につ
いては動作中、ヒューズ周
辺の温度が上がる場合があ
りますのでご注意ください。



エンジンスターター本体の
内部に異物を入れないで下
さい。また、分解、改造は絶
対にしないで下さい。故障
の原因となります。

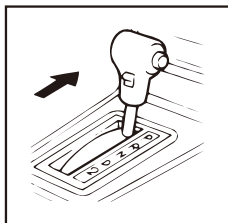


リモコン本体が汚れた場合
は、薄めた中性洗剤をしみ
込ませた布をよくしぼって
ふき、乾いた布でもう一度
ふいて下さい。
ベンジン、シンナー等は絶
対に使用しないで下さい。
変形、変色や事故の原因と
なります。

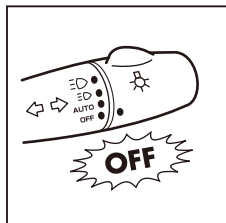


リモコン本体にキーホルダ
ー等を取り付ける場合は、
必ず付属のホルダーリング
に取り付けて下さい。破損
の原因となります。

使用上の注意

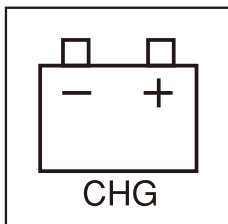


シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。

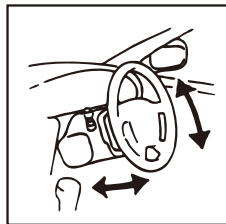


オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がり原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。

一部の車種では「オートライトアダプター」(別売)をお取り付け頂くことで、オート状態でも使用出来るようになります。



キーでエンジンを始動した後に、充電警告灯が消えない車は、エンジンスターターを使用せずに車の点検整備をして下さい。



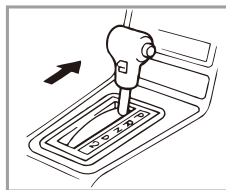
オートチルト及びマイコンリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は働きません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。

ドアスイッチ配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることも出来ます。詳しくは22ページを参照して下さい。

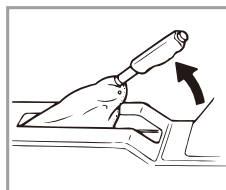
- リモコンドアロックあるいは、キーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(本機リモコンでのエンジン駆動中も含む)リモコンによるドアのLOCK/UNLOCK操作が出来なくなる車種があります。一度エンジンを止めるか、キーでドアを開けて下さい。
「キーレスアダプター」(ミツバG-System:別売)をお取り付け頂くことで、本機リモコンのACCスイッチでドアのLOCK/UNLOCKが出来るようになります。(但し、一部の車種を除きます。必ず「EGSシリーズ対応車種一覧表」をご確認下さい。)
- バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動出来ない場合があります。
- 環境保護のため必要以上のアイドリングは行わないで下さい。

- リモコンを操作する時はアンテナを十分に伸ばして下さい。電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意ください。
- 寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車を整備して下さい。

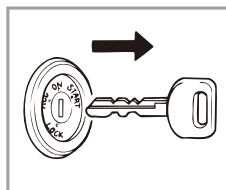
取り付け前の準備



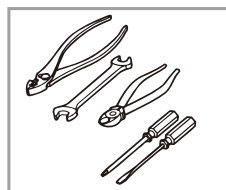
●シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れて下さい。



●パーキングブレーキは確実にかけて下さい。

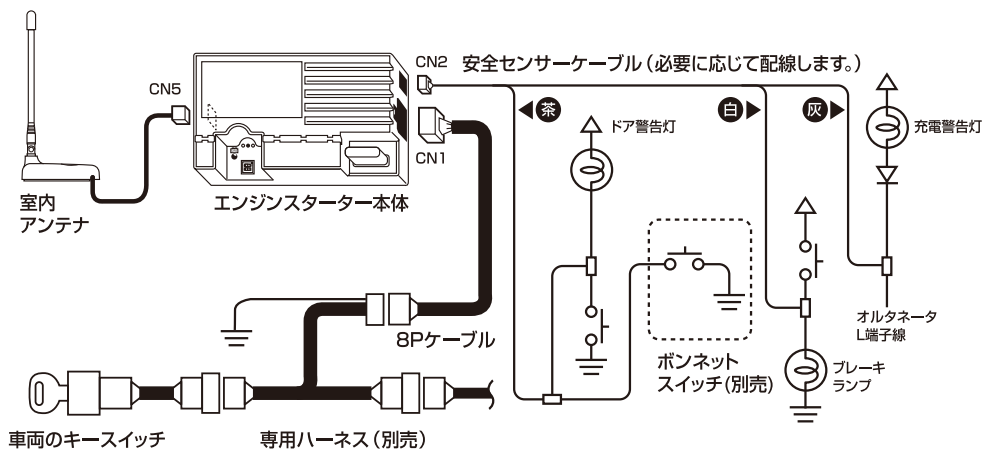


●車のキーは必ず抜いて下さい。



●取り付け工具について。
 プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・テスター等。工具は本商品には同梱されていないので、別途ご用意下さい。

取り付け概念図



専用ハーネス・室内アンテナ・エンジンstarter本体の接続

ステップ 7

キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次のようになります。詳しくは「EGSシリーズ適応車種一覧表」をご参照下さい。

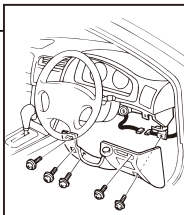
メモ キースイッチの配線カプラーは基本的に車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安に下さい。

■タイプ1

- アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってはキーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

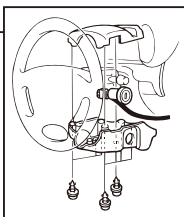


■タイプ2

- ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度位回さないといけない場合もあります。

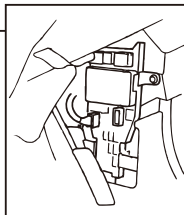


■タイプ3

- ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接、接続されているタイプ。

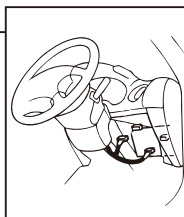
メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。



■タイプ4

- 配線カプラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。



ステップ 2

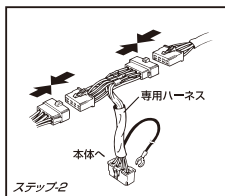
専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーを一旦外します。

車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。

注意

カプラーの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本機がうまく作動しないことがあります。



ステップ2

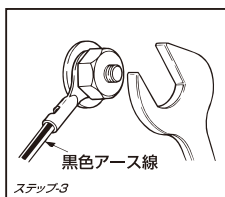
ステップ 3

アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

注意

塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けないで下さい。動作が不安定となり、オートマッチック車の登録情報が消去されたり、エンジンが始動しない等の不具合が生じます。



ステップ3

ステップ 4

エンジンstarter本体と専用ハーネスを接続します。

エンジンstarter本体のコネクター部(CN1)と専用ハーネス先端コネクター部を8Pケーブルで接続します。

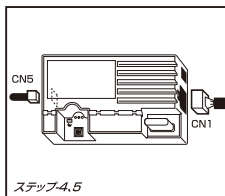
ステップ 5

エンジンstarter本体と室内アンテナを接続します。

エンジンstarter本体のコネクター部(CN5)と室内アンテナから出ているケーブルを接続します。

注意

ケーブル接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本機がうまく作動しないことがあります。



ステップ4,5

以上で接続は終了です。

次に必ずオートマッチック車の登録をして下さい。

オートマチック車の登録

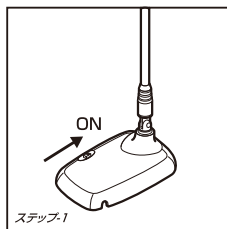
M/T車への取り付け防止のためのA/T車判別機能を搭載しています。(取り付けたときにA/T車の認識作業を行いますので、M/T車にはお取り付け出来ません。)登録作業中はエンジンを始動させないで下さい。誤って始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

ステップ1

室内アンテナのパワースイッチをONにします。

このとき、エンジンスターター本体から、「ブーブー ブーブー…」と断続音が鳴り続けます。

メモ ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、また車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。

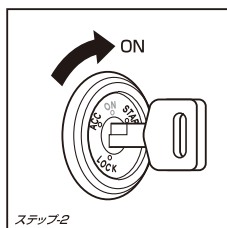


ステップ2

キーをONの位置にします。

このとき、エンジンスターター本体からの断続音が、「ブブッ ブブッ…」の2連音へと変化します。

メモ このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

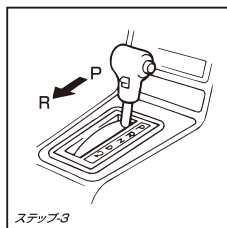


ステップ3

シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンスターター本体からの断続音が、「ブブブッ ブブブッ…」の3連音へと変化します。

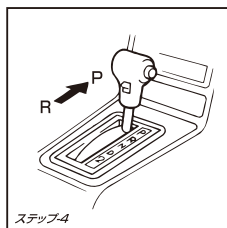
注意 ・シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音に変化することを必ず確認して下さい。断続音に変化しない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。)なお、追加配線後はステップ1からやり直して下さい。



ステップ4

シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このとき、エンジンスターター本体から「ブブブッ ブー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終わったことを知らせて鳴り止みます。



ステップ5

キーをOFFにします。

以上でオートマチック車の登録は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。



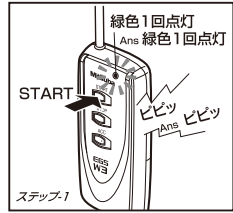
警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりと引いて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにしてください。重大な事故につながる恐れがあります。

ステップ
1

リモコンのSTARTスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビピッ」が鳴るまでSTARTスイッチを押し続けます。このときLED緑色が1回点灯します。その後、約1秒後にアンサーバック音「ビピッ」が鳴り、同時にLED緑色が1回点灯します。



ステップ
2

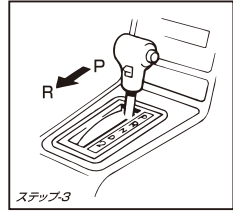
車のエンジンが始動します。

エンジンスターター本体が信号を受信すると、数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。エンジン始動後は、エンジンスターター本体から警告音「プッ」が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ(再始動)動作を行います。

ステップ
3

シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。このときエンジンが止まることを確認します。



車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

以上で動作確認は終了です。正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

エラー発生時のQ&A

Q (症状)

- ステップ1でリモコンSTARTスイッチ操作1秒後のアンサーバック音「ビピッ」及びLED緑色の点灯状態が説明と異なるのですが…?
- エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまうのですが…?
- エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…?
- 寒冷時に始動がうまく行われませんが…?
- スターターモーターの駆動時間が短いために、1回目のスターター駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまうのですが…?
- リモコン操作による始動後にABS警告灯が点灯しないのですが…?
- リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?

A (対処方法)

アンサーバック音	リモコンLED	状態	対処
ブーブ	橙色2秒点灯	室内アンテナからのアンサー信号を受信出来ません。	室内アンテナのパワースイッチが入っていません。スイッチをONにしてください。
ブー	点灯しない	室内アンテナとエンジンスターター本体とのシステムエラーです。	室内アンテナのケーブルがきちんとエンジンスターター本体に接続されていません。しっかりと接続して下さい。
ブブブブ	橙色4回点滅	キャリアセンス確認エラーです。	近くで同じ周波数(429MHz)を使用した無線機器が電波を送出中です。しばらく時間(数秒程度)を置いてからもう一度操作して下さい。

エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。
詳しくは、12ページの「L端子検出方式への変更」を参照して下さい。

- ▶ 一部のディーゼル車等でグロー(予熱)時間が足りないことが考えられます。詳しくは、13ページの「始動パターンの切替」(グロー設定/解除)を参照して下さい。
- ▶ スターターモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、14ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。
- ▶ キー始動学習を行うことで警告灯が点灯するようになります。詳しくは、14ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。
- ▶ オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、15ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を参照して下さい。

うまく動作しない場合の対応

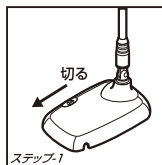
L端子検出方式への変更

ステップ

1

室内アンテナのプアスイッチを切ります。

すでに付属の安全センサーケーブルがエンジンスタート本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ1

ステップ

2

車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止しているとき、約1~3V、エンジンが駆動しているとき、約12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



ステップ2

ステップ

3

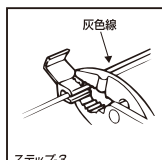
安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



警告

接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。なお、エレクトロタップは防水のためテーピングして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。

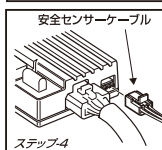


ステップ3

ステップ

4

安全センサーケーブルをエンジンスタート本体のコネクタ一部(CN2)に接続します。



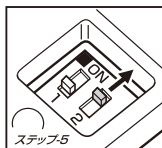
ステップ4

ステップ

5

エンジンスタート本体のモードスイッチの2番をONにします。

スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行って下さい。



ステップ5

以上でL端子配線は終了です。

プアスイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。なお、接続したL端子が正しいか否かを、エンジンスタート本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認することが出来ます。チェック方法は、下記「L端子誤配線チェック機能」に習って行って下さい。

L端子誤配線チェック機能

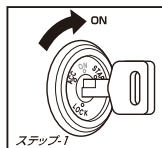
以下のチェック方法は、モードスイッチ2がONのときのみ行うことが出来ます。

ステップ

1

キーをONの位置にします。

このときエンジンスタート本体の「CHGランプ」が点灯することを確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



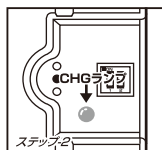
ステップ1

ステップ

2

上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(エンジンスタート本体から「ピーピー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ2

以上でL端子誤配線チェックは終了です。

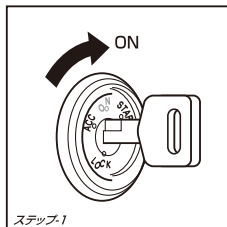
始動パターンの切替（グロー設定/解除）

一部のディーゼル車等で、グロー（予熱時間）が必要な場合、以下の操作をすることによりグローを設定することが出来ます。グローは6秒です。お取り付け時はグロー設定が解除されています。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ
2

10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

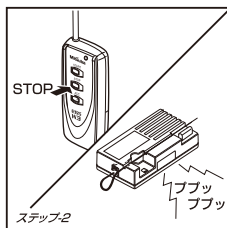
エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。
このとき、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ビーッ」、LED赤色1回点灯】

リモコンのアンサー表示 【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】



10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ
3

30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)グロー（予熱時間）を設定する場合。

リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

エンジンスターター本体から「ブービー」という音がして、グローが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

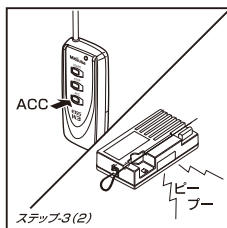
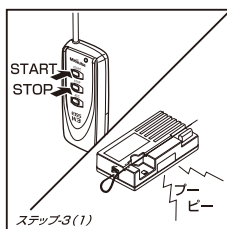
(2)グロー（予熱時間）を解除する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ビービー」という音がして、グローの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ビー・ビッ」と「ビビビビッ」音が交互に鳴りますが、設定には支障ありません。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上で始動パターンの切替は終了です。



車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外した場合には、再度設定する必要があります。

うまく動作しない場合の対応

キー始動学習機能の設定

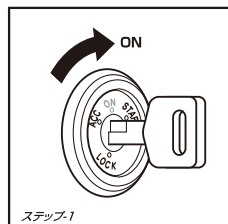
次のような場合には、キー始動学習機能を設定して下さい。
(エンジン停止状態から始めて下さい。)

- リモコン始動時にABS警告灯が点灯したままとなってしまう。
- スターターモーター駆動時間が短かすぎてエンジンがかかりにくい。

ステップ1

キーをONの位置にします。

このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ2

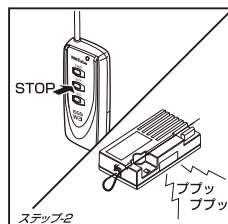
10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。
このとき、リモコンは以下の表示をします。

- | | |
|-------------|------------------------|
| リモコンの送信表示 | 【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】 |
| リモコンのアンサー表示 | 【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】 |

メモ

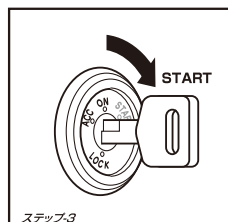
10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、
LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ3

30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンスターター本体から「ブブブブー」と音が鳴りキー始動学習が行われたことを知らせ、鳴り止みます。このときにスターターモーター駆動時間を「0.8～2.5秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。よって、通常使用時と同一環境下で学習操作を行うと効果的です。
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
(エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がします。)
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ4

キーをOFFにします。

以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

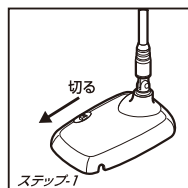
メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外した場合には、再度設定する必要があります。

フットブレーキ検出方式への変更

ステップ1 室内アンテナのパワースイッチを切ります。

すでに付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。

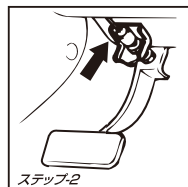


ステップ1

ステップ2 車のフットブレーキスイッチを探します。

フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。

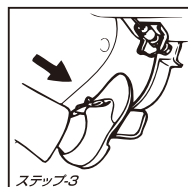
メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキのことではありません。



ステップ2

ステップ3 ブレーキペダルを踏んだとき12Vになる線を見つけます。

フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まないときは0V、踏んだときに12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)

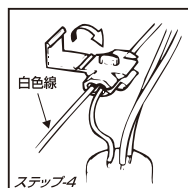


ステップ3

ステップ4 安全センサーケーブルの白色線を接続します。

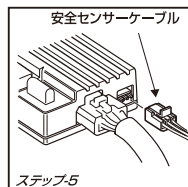
安全センサーケーブルの白色線を、ステップ3で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

注意 接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。フットブレーキ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングして下さい。



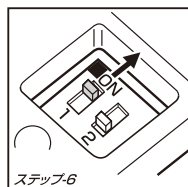
ステップ4

ステップ5 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部 (CN2) に接続します。



ステップ5

ステップ6 エンジンスターター本体のモードスイッチの1番をONにします。



ステップ6

以上でフットブレーキ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだときにエンジンが停止することを確認して下さい。

室内アンテナの取り付け

ステップ 1

室内アンテナを設置します。

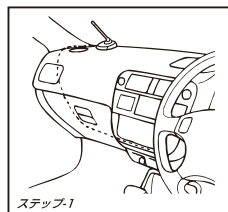
ダッシュボードのサイドビラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。

マジックテープは、室内アンテナ裏面のラベルを避けて貼って下さい。



警告

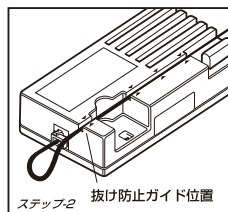
室内アンテナは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー一部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。



ステップ1

ステップ 2

エンジンスターター本体の抜け防止ガイドに室内アンテナのケーブル線を固定して下さい。



ステップ2 抜け防止ガイド位置

未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け

ステップ 1

未使用端子の絶縁処理をします。

安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行わなかった場合は、ドアスイッチ配線に付いているギボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。



注意

絶縁処理は確実に行って下さい。ショートして誤作動、故障の原因となります。

ステップ 2

配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線した、ケーブル類、専用ハーネス等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。



警告

配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本機や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には固定しないで下さい。運転の妨げになり事故の原因となります。

ステップ 3

エンジンスターター本体を設置します。

エンジンスターター本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。



警告

エンジンスターター本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。エンジンスターター本体が干渉した場合、運転操作を妨げる恐れがあります。なお、8Pケーブルの接続コネクター部へ無理な力をかけたり、強くまげられた状態で固定しないで下さい。接続部周辺が発熱し、故障の原因となります。

ステップ 4

外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



危険

ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

以上で取り付けは終了です。

ステップ 1

あらかじめ車を下記の状態にします。

1. 室内アンテナのパワースイッチをONにする。
2. パーキングブレーキを確実にかける。
3. シフトレバーはPレンジに入れる。
4. 必要に応じてエアコンをセットする。
5. オートライト装着車は、ライトスイッチをOFFにする。
6. キーを抜く。



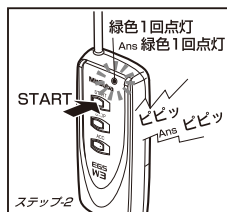
注意

リモコンでエンジン始動中は、エアコン(ヒーター)以外のスイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となる恐れがあります。

ステップ 2

リモコンのSTARTスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビピッ」が鳴るまでSTARTスイッチを押し続けます。このときLED緑色が1回点灯します。それから1秒後にアンサーバック音「ビピッ」が鳴り、同時にLED緑色が1回点灯します。



ステップ 3

車のエンジンが始動します。

数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。



リモコンによるエンジン駆動中は、リモコン始動直後から数秒間隔でエンジンスターター本体から警告音「ビッ」が鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音へと変わり、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

ステップ 4

走行します。

車のキーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。あとは通常通り走行出来ます。なお、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



警告

キーを回す際に、誤ってSTART(STT)の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

リモコンでエンジン停止

本機によるエンジン駆動中は、リモコン操作でエンジンを停止することが出来ます。

ステップ 1

リモコンのSTOPスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ピーッ」が鳴るまでSTOPスイッチを押し続けます。このときLED赤色が1回点灯します。それから1秒後にアンサーバック音「ピーッ」が鳴り、同時にLED赤色が1回点灯します。



ステップ 2

車のエンジンが停止します。

タイマーで自動停止

始動後約20分(初期状態)でエンジンは自動停止します。自動停止時間は「10分／20分／30分」に変更することが出来ます。詳しくは19ページの「アイドル時間の設定」を参照して下さい。

リモコンでエンジンの状態を確認する(アンサーバック)

本機はリモコンによるエンジン始動・停止を行った後、アンサーバックによりエンジンの状態を確認することが出来ます。

エンジン始動の確認

ステップ

1

STARTスイッチを押します。

リモコン送信表示【音「ピピッ」、LED緑色1回点灯】がされます。



ステップ

2

アンサーバックを確認します。

(送信表示の約1秒後に表示されます。)

(a) エンジンが停止しているため始動を開始します。

→【音「ピピッ」、LED緑色1回点灯】

(b) エンジンを始動(リトライ含む)中です。

→【音「ピッピッ」、LED緑色2回点滅】

(c) エンジンを駆動(アイドル)中です。

→【音「ピッピッピッピッ」、LED緑色2秒点灯】



エンジン停止の確認

ステップ

1

STOPスイッチを押します。

リモコン送信表示【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】がされます。



ステップ

2

アンサーバックを確認します。

(送信表示の約1秒後に表示されます。)

(a) エンジンが駆動しているため停止します。

→【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】

(b) エンジンは既に停止しています。

→【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】



アイドリング時間の設定

本機は、リモコン始動の自動停止時間を「10分/20分/30分」のいずれかに変更することが出来ます。
お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

このとき、誤ってエンジンを開始させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ
2

10秒以内にリモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブブッ ブブブッ…」の3連音が鳴ります。
このとき、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ビビッ」、LED緑色1回点灯】

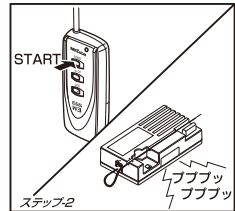
リモコンのアンサー表示 【音「ビビビッ」、LED橙色3回点滅】

メモ

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。

キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。

10秒以上経過した場合のアンサー表示は【音「ブーブー」、LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ
3

30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTARTスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1) 『10分』に設定する場合。

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブー」という音がして、10分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

(2) 『20分』に設定する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、20分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

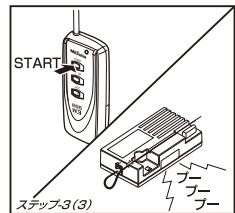
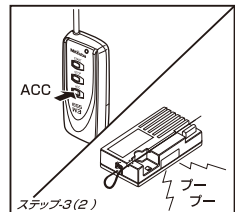
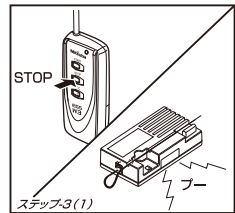
メモ

リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ピー・ビッ」と「ビビビビッ」音が交互に鳴りますが、設定には支障がありません。

(3) 『30分』に設定する場合。

リモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブーブーブー」という音がして、30分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上でアイドリング時間の設定は終了です。

メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定(20分)に戻ります。

ターボタイマー機能について

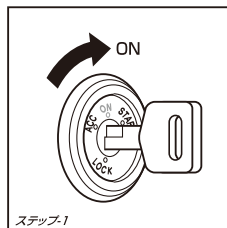
ターボタイマーの設定/解除方法

お取り付け時(初期状態)はターボタイマーの設定が解除されています。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ 2

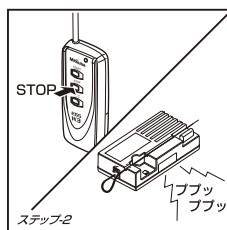
10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブツ ブツ…」の2連音が鳴ります。
このとき、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ピーツ」、LED赤色1回点灯】
リモコンのアンサー表示 【音「ピーツ・ピーツ」、LED赤色2秒点灯】

メモ

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブープー」、
LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ 3

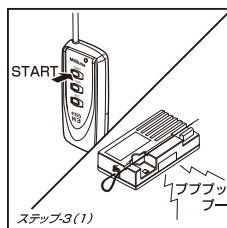
30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)ターボタイマーを設定する場合。

リモコンのSTARTスイッチを押します。

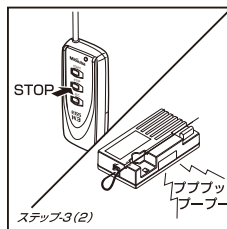
エンジンスターター本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(2)ターボタイマーを解除する場合。

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブブブブーピー」という音がして、ターボタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

ターボタイマー機能について

ターボタイマーの使用方法

本機のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。
アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。

ステップ 1 キー、またはリモコンで、エンジンを始動させます。

ステップ 2 走行します。

少なくとも30秒間は走行状態にしないと、ターボタイマーは働きません。

ステップ 3 走行終了後、シフトレバーをPレンジにしてからキーをOFFにします。

エンジンスターター本体から「プップップ」というカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。



警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりと引いて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。

- 車によってはターボタイマー作動中にキーが抜けられない場合があります。
このような場合は、別売の「日産キーロックアダプター」をご使用下さい。
- 車によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。
このような場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。
- ターボタイマーのアフターアイドル時間は10秒～2分50秒の範囲で自動的に設定されます。

リモコンでターボタイマー停止

リモコンのSTOPスイッチを押すことにより、ターボタイマー作動中のエンジンを停止させることが出来ます。

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。スリープ機能が働くと、リモコンによるエンジン始動は出来ません。
スリープ機能を解除するときは、パワースイッチを一度切って入れ直すか、キーを使ってエンジンを始動させて下さい。

本機の電源を切るときは

車を車検・整備に出すときや、旅行等により長期間使用しない場合は安全のため、室内アンテナのパワースイッチを切って下さい。EGS-W3はメモリー機能により、次回お使いになる際も再度オートマチック車の登録やターボタイマーの設定等は必要ありません。
パワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用出来ます。



車種別専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

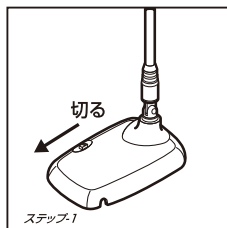
運転席ドアスイッチ配線を行う場合

ドアスイッチへの配線を行うことにより、リモコン始動でのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させることが出来ます。

ステップ
1

室内アンテナのパワースイッチを切ります。

すでに付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



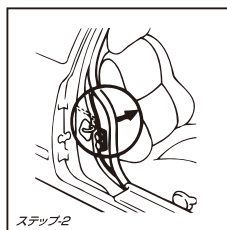
ステップ
2

車の運転席側ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けたときはOV、閉めたときに12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

メモ

半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせるためのスイッチです。



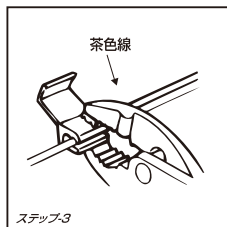
ステップ
3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ2で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

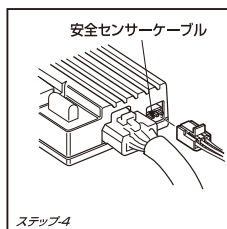
注意

接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。



ステップ
4

安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



以上でドアスイッチ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けたときにエンジンが停止することを確認して下さい。

ボンネットスイッチ（別売）を取り付ける場合

ボンネットスイッチ（別売）の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いているときのリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内の各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合

ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行うことで、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしているときは、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。

注意

安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線するには別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂くこととなりますので、あらかじめお買い求め下さい。

*【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】

ステップ
1

車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ3まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ
2

ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ
3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。すでにドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。

注意

接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。

ステップ
4

安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。

以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けたときおよびボンネットを開けたときにエンジンが停止することを確認して下さい。

注意

ボンネットスイッチとドアスイッチ配線を併用した場合、ボンネットを開けると、半ドア警告灯及びルームランプが点灯ようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。

「ミツバG-System」について



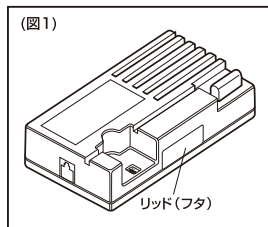
「ミツバG-System」とは、対応商品どうしを組み合わせることにより、プラスアルファの機能が実現出来るように設計されたグレードアップ対応システム商品です。今後、「ミツバG-System」対応商品を随時発売する予定になっています。「ミツバG-System」対応商品を追加接続する場合、別売の接続ハーネスが必要となる場合があります。接続及び取り扱いに関しては、別途、各商品に付属の取扱説明書をよくご覧下さい。

本機は、「ミツバG-System」対応の盗難警報機やキーレスアダプターを取り付けることで、リモコン操作による盗難警報機の制御や、ドアのLOCK/UNLOCKを行うことが出来ます。

お取り付けには、「ミツバG-System」商品に付属の取扱説明書をよく読んで行って下さい。

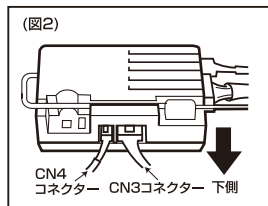
一部の車種ではお取り付け出来ない場合もあります。必ず「EGSシリーズ適応車種一覧表」でご確認下さい。

- 「ミツバG-System」対応商品を取り付ける場合、エンジンスターター本体のリッドを外す必要があります(図1)。それ以外ではリッドは絶対に外さないで下さい。必ず室内アンテナのパワースイッチを切って8Pケーブルを取り外してからリッドを外して下さい。そのまま作業しますと、電源ショート等により、故障したり発火する恐れがあります。



警告

- リッドの取り外しは、精密ドライバー等で端からはがすように行って下さい。その際ケガをしないように充分注意して行って下さい。
- 「ミツバG-System」対応商品を取り付けた後、エンジンスターター本体を設置する場合は、CN3、CN4コネクタ面が必ず下を向くようにし、異物が入らないようにして下さい(図2)。



本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品进行操作する場合

「ミツバG-System」対応商品は、本機のリモコンのACCスイッチで操作できます。

ACCスイッチは押す毎に【音「ピーッ・ピッ」、LED緑色ゆっくり2回点滅】と【音「ビビビッ」、LED赤色2回点滅】の送信が交互に切り替わります。

■各操作の一例

オプション制御	送信表示/アンサー表示		G-System商品の動作一例
	ブザー音	LED表示	
①	送信時：ピーッ・ピッ アンサー時：ピーッ・ピッ	送信時：緑色ゆっくり2回点滅 アンサー時：緑色ゆっくり2回点滅	盗難警報機：セット キーレスアダプター：LOCK
②	送信時：ビビビッ アンサー時：ビビビッ	送信時：赤色2回点滅 アンサー時：赤色4回点滅	盗難警報機：リセット キーレスアダプター：UNLOCK

本機は遠距離からの不用意な操作による盗難警報機のリセット、キーレスのUNLOCKを防ぐため、②の電波到達距離を短くしてあります。周囲の状況にもよりますが電波到達距離は、リモコンのロッドアンテナを収納した状態で5~10m程度、引き出した状態で150~250mになります。



キーがONの位置になっているときは、リモコンのACCスイッチによる操作は受け付けません。また、パワースイッチを切っているときや、スリープ機能が働いているときも、ACCスイッチによる操作は受け付けません。盗難警報機の制御は「セット」と「リセット」のみとなります。

「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよくご覧になり、必要に応じてオプション(別売)をご使用下さい。

●ボンネットスイッチ

車のボンネットが開いているときに、リモコンでのエンジン始動を出来なくする安全装置です。

●ホンダレジェンド用DPSアダプター

レジェンド(型式KA7～9のDPS装着車)ドライビングポジションシステムのチルトステアリングのAUTO機能を作動させることが出来るようになります。

●日産キーロックアダプター

一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。

●ターボタイマーストール防止アダプター

一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケータランプが一瞬点灯または点灯したままとなったり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。

●オートライトアダプター

オートライト装着車の一部車種で、ライトポジションがオート状態のままでも問題なく使用出来るようになります。詳しくは、7ページの「使用上の注意」を参照して下さい。

●キーレスアダプター(ミツバG-System)

本機のリモコン操作でドアのLOCK/UNLOCKが行えるようになります。詳しくは、24ページの「本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品を操作する場合」を参照して下さい。

一部の車種ではモーターキット(別売)が必要になります。必ず事前に「EGSシリーズ適応車種一覧表」を確認して下さい。

●Gシステム対応盗難警報機シリーズ

Gシステム対応の盗難警報機を追加することが出来ます。この場合、本機のリモコンで警報機を制御(セット/リセット)することが出来ます。詳しくは、24ページの「本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品を操作する場合」を参照して下さい。

メモ 盗難警報機の制御は「セット」と「リセット」のみとなります。

電池の交換方法

リモコンは新品の電池で約1000回*以上使用出来るように設計されております。使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。また、商品に添付されている電池はテスト用のものですので、1000回以内に電池交換が必要になる場合があります。

*使用温度によっては若干少なくなります。

ステップ
1

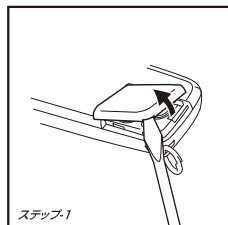
電池蓋を外します。

マイナスドライバーの先端等で電池蓋の端を引き上げるようにして外して下さい。



注意

外す際に、マイナスドライバーの先端等でケガをしないよう、ご注意ください。



ステップ1

ステップ
2

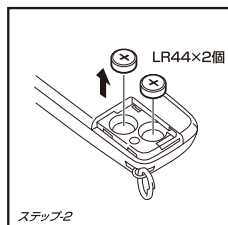
電池を交換します。(アルカリボタン電池LR44×2個)

電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。

電池のプラス面が蓋側となります。



注意 電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。



ステップ2

ステップ
3

電池蓋を閉じます。

電池のプラス、マイナスの向きが合っていない場合は、電池蓋がうまく閉じませんので、ご注意ください。

ステップ
4

交換後、リモコンの動作確認を行って下さい。

リモコンを紛失したときは

リモコンを紛失または修理不可能な破損をした場合は、リモコンのみ購入が出来ます。この場合、新しいリモコンのIDコードをエンジンスターター本体に登録する必要があります。詳しくは別売リモコンに付属の説明書をご覧ください。リモコンは、販売店または取扱店へご注文下さい。



リモコンのID登録はエンジンスターター本体側の操作で行います。従ってエンジンスターター本体をお送り頂く必要はありません。なお、登録出来るリモコンは1台分のみとなりますので、元のリモコンは使用出来なくなります。(スペアリモコンとしての設定は出来ません。)

故障かな?と思ったら

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのスイッチを押しても送信表示しない。	・スイッチを押す時間が短くありませんか?	・0.5秒以上スイッチを押して下さい。
	・リモコンの電池は消耗していませんか?	・電池を新品に交換して下さい。
リモコンのスイッチを押してもエンジンスターター本体が作動しない。	・車のキーがONになっていませんか?	・キーを抜いて下さい。
	・車のバッテリー端子が外れていませんか?	・端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい。 (詳しくは、P.10を参照して下さい。)
	・15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	・スリープモードになっています。 パワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させて下さい。
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	・ドアが開いていませんか? (運転席のドアスイッチ配線を行った場合。)	・ドアを開けて下さい。
	・ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	・ボンネットを開けて下さい。
	・ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか?	・正しく配線して下さい。
	・フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか?	・正しく配線して下さい。
	・リモコンのアンサー表示がキャリアセンスによるNGとなっていますか? NG表示【音「ブブブッ」、LED橙色4回点滅】	・キャリアセンスにより無線送信が出来ません。 しばらくしてから操作して下さい。 (詳しくは、P.29を参照して下さい。)
エンジンスターター本体から「ブーブー、ブーブー…」音が鳴っていて、リモコンのスイッチを押しても、まったく作動しない。	・バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか?	・オートマチック車の登録情報が消去されています。再度「オートマチック車の登録」を行って下さい。 (詳しくは、P.10を参照して下さい。)
	・ヒューズ交換、専用ハーネスとのカプラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか?	
リモコンのSTARTスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない。	・車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	・専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか?	・適切な場所に接続し直して下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作を行うが、エンジンがかからない。	・オルタネーター(L端子)配線を行いましたか?	・オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。 (詳しくはP.12を参照してください。)
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	・専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか?	・適切な場所に接続し直して下さい。

故障かな?と思ったら

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作中にエンジンスターター本体から「ピーピーピー」と音がして停止してしまう。	・専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか?	・適切な場所に接続し直して下さい。
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
室内アンテナのパワースイッチをONにしても本体の電源が入らない。	・エンジンスターター本体のヒューズが切れていませんか?	・ヒューズを交換して下さい。
	・専用ハーネスのカブラーが外れていませんか?	・カブラーを確実に差し込んで下さい。
	・専用ハーネスの黒色アース線が外れていませんか?	・黒色アース線を確実に接続して下さい。
電波到達距離が短くなった。	・リモコンの電池は消耗していませんか?	・電池を新品に交換して下さい。
	・リモコンのアンテナは伸ばしてありますか?	・リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	・リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか?	・操作の際はアンテナに触れないようにして下さい。
ターボタイマーが作動しない。	・ターボタイマーの設定を行っていますか?	・ターボタイマーの設定をして下さい。
	・車を30秒以上走行させましたか?	・30秒以上走行して下さい。
	・フットブレーキへの配線(必要時)を行っており、フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか?	・フットブレーキを踏まずにキーをOFFにして下さい。
	・車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていませんか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	・ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	・ボンネットを開けて下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音「ピー・ピー…」が鳴り続ける。	・車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていませんか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	・車のキーがACCになっていませんか?	・キーを抜いて下さい。
	・専用ハーネスの品番は正しいですか?	・「EGSシリーズ適応車種一覧表」を再度確認して下さい。車の車種名・年式・型式を照会後、品番が正しい場合は当社技術サービスまでお問い合わせ下さい。 ★警告音はキーをONにすれば停止します。

リモコンのブザー音とLED表示について

(各種機能設定[ターボタイマー設定、アイドルング時間設定等]を除く。)

●送信操作時一覧表

スイッチ操作	ブザー音	LED表示	意味
START	ビッピ	緑色1回点灯	エンジンの始動
STOP	ビーッ	赤色1回点灯	エンジンの停止
ACC	ビーッ・ビッ	緑色ゆっくり2回点滅	オプション制御①(キーレス:LOCK・警報機:セット)
	ビビビッ	赤色2回点滅	オプション制御②(キーレス:UNLOCK・警報機:リセット)

●アンサーバック受信時一覧表

スイッチ操作	ブザー音	LED表示	意味
START時 アンサー	ビッピ	緑色1回点灯	エンジンの始動を開始します。
	ビッピッ	緑色2回点滅	エンジンの始動中(リトライ含む)です。
STOP時 アンサー	ビーッ	赤色1回点灯	エンジンを停止します。
	ビーッ・ビーッ	赤色2秒点灯	エンジンは既に停止中です。
ACC時 アンサー	ビーッ・ビッ	緑色ゆっくり2回点滅	オプション制御①(キーレス:LOCK・警報機:セット)を行います。
	ビビビッ	赤色4回点滅	オプション制御②(キーレス:UNLOCK・警報機:リセット)を行います。
エラーを表す アンサー	ブーブー	橙色2秒点灯	室内アンテナからのアンサーバック信号が受け取れません。
	ブー	なし	室内アンテナまたはエンジンスターター本体に異常があります。
	ブブブッ ビビビッ	橙色4回点滅 橙色3回点滅	キャリアセンス確認エラーのため送信出来ません。(注意2参照) 安全機能が動作中です。 (ドアスイッチ、ボンネットスイッチ、フットブレーキ検出)

<注意>

- 1.イグニッションキーをONしてから10秒を経過すると、車側の室内アンテナ(無線の受信部)は動作を停止します。
- 2.[キャリアセンス]とは電波法で定められており、他の無線機が同一周波数(429MHz)電波を送信(占有)している間は電波を送出することが出来ません。なお、通信時には制限がありますので、しばらくすると送信が出来るようになります。
- 3.ACCスイッチ操作は別売オプション品を取り付けたときに使用します。

エンジンスターター本体のブザー音について

(オートマチック車登録、キー始動学習を除く)

ブザー音	意味
ブッブッ	エンジンスターター本体の電源が入った場合。
ブッ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合。オルタネータ(L端子)配線が正しい場合。
ブッ	リモコンでエンジンが始動した場合。
ブッ ~ ブー	リモコンでエンジン駆動中。 リモコンでエンジン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブブッ	スリープから復帰した場合。
ビービー	リモコンでエンジンが始動しない場合。
ビービービー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ビー・ビー…… (繰り返し)	車との相性が悪い(悪くなった)場合。 *当社技術サービスへお問い合わせ下さい。 ★警告音はイグニッションキーをONの位置にすれば停止します。

エンジンスターター本体部のモードスイッチについて

(商品出荷時は全てOFFとなっております。)

スイッチ番号	モードメニュー	OFF	O N
1	シフト検出	自動検出	キャンセル(通常使用しません。) *フットブレーキへの記録が必要です。(P.15の「フットブレーキ検出方式への変更」を参照。)
2	始動検出	自動検出	オルタネーターのL端子線の変化のみで、エンジンの始動状態を検出する *L端子線への記録が必要です。(P.12の「L端子検出方式への変更」を参照。)

●リモコン

型式名	: HX-06MA
技術基準	: ARIB STD-T 67 特定小電力無線局 テレメータ・テレコントロール・データ伝送用無線設備
使用周波数	: 429MHz
通信方式	: 単信方式
送信出力	: 10mW以下
スイッチ	: START/STOP/ACC
送信確認方式	: ブザー、LED
送信時間	: 約1秒
送信休止時間	: 2秒以上
アンテナ	: ロッドアンテナ
動作温度範囲	: -20℃～+60℃
定格電圧	: DC3V
使用電池	: アルカリボタン電池 LR44×2個
重量	: 35g (電池含む)
外観寸法	: 75.8mm×33mm×15.2mm
〈H×W×D〉	*突起部は除く

●室内アンテナ/エンジンスターター本体

型式名	: MX-06M(室内アンテナ)/BX-06M(エンジンスターター本体)
技術基準	: ARIB STD-T 67 特定小電力無線局 テレメータ・テレコントロール・データ伝送用無線設備
使用周波数	: 429MHz
通信方式	: 単信方式
送信出力	: 10mW以下
送信時間	: 40秒未満
送信休止時間	: 2秒以上
アンテナ	: 可倒式ラバーアンテナ
動作温度範囲	: -20℃～+70℃
電源電圧	: DC 8.5V～16V
消費電流	: 通常待機時平均 10mA以下 スリープモード時 850μA以下
重量	: 88g (室内アンテナ)/135g (エンジンスターター本体)
外観寸法	: 163mm×45mm×75mm (室内アンテナ)
〈H×W×D〉	34mm×120mm×70mm (エンジンスターター本体)

使用中に正常に動作しなくなった時は、

まず本書27～28ページの「故障かな?と思ったら」を参考にしてチェックして下さい。「処置」を行っても改善が見られないときは、お買い上げ店、または当社技術サービスにお問い合わせ下さい。

保証をお受けになる場合、

お買い上げ店に不具合内容を具体的に提示の上、リモコン、エンジンスターター本体、室内アンテナをセットにして、車検証のコピー、保証書と共にご依頼下さい。なお、保証範囲につきましては、保証規定をご覧ください。

保証対象外の修理について、

保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。詳しくは保証規定をご覧ください。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態でのご使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

●修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。また、修理の際は必ずリモコンとエンジンスターター本体、室内アンテナをセットでお渡しください。(リモコンのみでは修理できません)

●本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

●本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

なお、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

1. お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
 2. 商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
 3. 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
 4. 適応外車両へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
 5. 取付・取扱説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損害等。
 6. 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。
- 消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。
●修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。
●本商品の製造終了後5年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。

※保証期間経過後の修理については、当社技術サービスまでご相談ください。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

リモコンエンジンスターター
EGS-W3
アンサーバックシステム搭載モデル
取付・取扱説明書

製造・販売元

株式会社 **ミツバサンコーワ**
第二事業部

〒376-0102 群馬県山田郡大間々町桐原3546-1

●お取り付け等、技術的なお問い合わせ窓口/株式会社ミツバサンコーワ 第二事業部 技術サービス

TEL.0277-72-4588 FAX.0277-72-4822

(受付時間)平日: 10:00~12:00/12:45~19:00(土・日・祝祭日: 11:00~12:00/12:45~19:00)

Y-32057-10